

令和7年度当初予算（案）の骨子

『都市としての拠点性を高め、 選ばれるまち長岡の礎を創る予算』

国内外の政治経済情勢は不透明感を増し、ますます予測が困難な時代になってきました。長岡市においても、東京一極集中が再び加速する中で、人口減少・少子高齢化と、それに伴う人手不足や昨今の物価高騰など、市民生活は大変厳しく困難な状況にあります。

こうした中、国は、新たな地方創生として、多極分散型の多様な経済社会の構築を掲げており、本市も中越圏域の母都市として、「選ばれるまち長岡」の実現を目指し、人の流れや企業の拠点分散の受け皿となることで、社会の変化や困難に立ち向かってまいりたいと考えております。

そこで、長岡の原点である「市民協働」と「米百俵の精神」に立ち返り、令和7年度当初予算（案）を『都市としての拠点性を高め、選ばれるまち長岡の礎を創る予算』として、以下の5本の柱からなる予算を編成しました。

『安全・安心で誰にも優しく寄り添う市民協働のまちづくり』では、医療や福祉、困難を抱える人への支援をこれまで以上に充実させます。また、市民ぐるみの防災体制を強化するとともに、誰もが住み慣れた地域で安心して住み続けられるよう、生活環境の維持・確保にしっかりと取り組みます。

『子どもや若者の育ちと学び、夢への支援』では、米百俵の人材育成で多様な学びの場を提供し、教育環境の整備を進めます。さらに、発達支援の「長岡モデル」と子育てしやすいまちへ向けた体制を整備します。

『イノベーションとDX支援による産業のさらなる成長』では、地域のDXを推進するとともに、循環型社会に対応した新産業の創出を図ります。さらに、物価高騰等の環境変化に対応した地域経済の下支えや、産業界の多様な人材の確保と人手不足対策にも取り組んでまいります。

『長岡の歴史・魅力の発信と地域を元気にする活動の推進』では、歴史文化と伝統を継承し、観光資源の魅力向上で関係・交流人口の拡大を図るとともに、文化やスポーツで楽しく元気になる環境を整備します。

『効率的で持続可能な行政運営』では、行政サービスの質の向上を図りつつ、業務の効率化などに取り組み、持続可能な行政運営を着実に進めます。

予算の特徴

■ 予算規模

一般会計

1, 452億6, 500万円 (前年度比 8.4%増)

総予算 (特別会計・企業会計含む)

2, 319億8, 370万円 (前年度比 5.5%増)

■ 経済対策で事業前倒し

国の補正予算に伴い、令和7年度の予定事業を補正予算で前倒して実施することで、切れ目のない経済対策を実施

一般会計 普通建設事業費

〈6年度 経済対策補正予算〉

80.1億円

〈7年度当初予算〉

244.0億円

〈総額〉

324.1億円

・小中学校の大規模改修、道路整備や街路樹の植替えなど生活に密着したインフラの整備を前倒して実施

■ 重点施策

- | | |
|------------------------------|---------|
| I 安全・安心で誰にも優しく寄り添う市民協働のまちづくり | 410.8億円 |
| II 子どもや若者の育ちと学び、夢への支援 | 285.4億円 |
| III イノベーションとDX支援による産業のさらなる成長 | 54.6億円 |
| IV 長岡の歴史・魅力の発信と地域を元気にする活動の推進 | 66.5億円 |
| V 効率的で持続可能な行政運営 | 9.9億円 |

I 安全・安心で誰にも優しく寄り添う市民協働のまちづくり

中越圏域における救急医療体制の堅持や、介護事業所等に対するテクノロジー導入支援の拡充により、医療・福祉を充実させるほか、困難を抱える女性に対する支援や、ひきこもり相談・支援体制の充実を図ります。

市民総ぐるみの防災体制の強化として、災害時の情報収集・伝達手段を強化し、迅速で正確な情報発信を図るとともに、市内最大規模の雨水貯留施設を新たに整備することで、浸水対策の強化に取り組みます。

誰もが安心して、住み慣れた地域に住み続けられる生活環境を維持・確保するため、豪雪地帯の玄関先除雪と中山間地域でのオンライン診療をモデル事業として実施するほか、鳥獣被害対策の強化や地域交通の維持、町内会活動への支援、きめ細やかで機動的な土木施設管理など、安全で安心な生活を守るための取組を進めてまいります。

II 子どもや若者の育ちと学び、夢への支援

休日の中学校部活動の地域移行後も、すべての生徒が希望するジュニアスポーツ・文化芸術活動に参加できるよう、経済的困窮世帯や遠距離参加者の負担を軽減するほか、ミライエ長岡で中高生に多様な学びの場を提供します。さらに、登校後に教室以外の場所で過ごす児童生徒に安心できる居場所を確保するため、校内教育支援環境の整備を進め、校内教育支援センター支援員を配置します。

発達支援の「長岡モデル」として、こどもの発達相談・サポート体制を強化するとともに、発達支援アドバイザーの配置やインクルーシブ教育ソフトの活用により、特別支援教育を充実させます。また、子育てしやすいまちへ向けた体制整備として、配慮が必要な子どもへの支援体制を充実させるほか、ICT活用により利便性を向上するなど、児童クラブ・児童会館のサービス向上を図ります。

III イノベーションとDX支援による産業のさらなる成長

ながおかDXセンターを拠点としたAIの社会実証などの取組により、産業界のイノベーションを推進し、地域活性化を図ります。また、ミライエ長岡で産学官金が連携し、地域企業によるイノベーションの創発をワンストップ型で支援す

る体制を構築するほか、あぐらって長岡の次世代型園芸ハウスで長岡版スマート施設園芸の実証栽培を展開するなど、新産業の創出に取り組みます。

物価高騰に対応した制度融資の信用保証料の補助率を引上げて中小企業の資金繰りの支援を強化するほか、ながおかペイの地域企業応援キャンペーンなどにより、消費喚起と地域経済の活性化を図ります。

テレワークで働きたい女性や女性起業家のさらなる成長を支援するなど、女性の多様な働き方への支援を強化します。また、市内企業による外国人材の受入れと定着を促進するための相談窓口を試行開設するほか、従業員の奨学金返還相当額を給付する中小企業を支援するなど、産業界の多様な人材確保と人手不足対策の取組を強化します。

IV 長岡の歴史・魅力の発信と地域を元気にする活動の推進

長岡空襲と終戦から80年を迎えるにあたり、史実と平和の尊さを後世へ伝えるため、戦災資料館の所蔵資料をデジタルアーカイブ化し、空襲殉難者追慕の集いと特別企画展をアオーレ長岡で開催します。さらに、ふるさと納税や長岡花火をきっかけに長岡のファンとなった人々と継続したつながりを深めていくためのファンクラブサイトの構築に着手するとともに、観光プロモーションを展開します。また、佐渡との連携により広域的な周遊ルートを造成し、今年5月に国営越後丘陵公園で初開催される「ながおか米百俵フェス」を支援するなど、通年観光を目指した取組により、長岡の認知度向上を進めてまいります。

文化芸術分野の全国大会出場者に対する報奨金制度を創設するほか、アーバンスポーツフェス（仮称）を初開催し、eスポーツを無料体験できるブースを公共施設に設置するなど、文化やスポーツで楽しく元気になる環境を整備します。

V 効率的で持続可能な行政運営

社会経済情勢の変化に対応し、持続可能な行政運営を行うため、AIなどの先端技術を積極的に取り入れながら、行政サービスの質の向上と行政事務のさらなる効率化を図ります。

また、次期「長岡市総合計画」と次期「持続可能な行財政運営プラン」の策定に向けた検討を進めてまいります。